

212キロの旅 いざ出陣

オホーツク サイクリング 開会式で完走誓い

【雄武】網走管内雄武町一同斜里町間のオホーツク海沿岸二百二十キロを自転車で走破する「第二十六回インターナショナルオホーツクサイクリング2007」(実行委、北海道新聞社、日本サイクリング協会主催)の開会式が十三日、雄武町民センターで行われた。

タイムや順位を競わず、完走を目標に雄大な景観を楽しむ大会で、道内外から約八百五十人がエントリーしている。参加者は十四、十五日の二日間で三市七町を走り抜ける。

十四日は午前七時半に同センターを出発、北見市常呂町まで一三七・五

元気に完走を宣言する北見・若松小の松本拓久君

インターナショナル オホーツクサイ

実行委員会 北海道新



女性科学者奨励賞に 北大の作田さんら5人

優れた成果を挙げた若手女性研究者に贈られる「ロレアル・ユネスコ女性科学者日本奨励賞」の今年の受賞者五人が決まり十三日、東京都内で授賞式が開かれた。

生命科学分野では、骨粗しょう症にも関係する破骨細胞の分化の仕組みを解明した理化学研究所研究員の黒田有希子さん(三九)と、ジュウシマツの発声に着目し、その大脳

海軍功労に

道内の15個人・団体 国土交通省は十六日の「海の日」にちなみ、海軍関係功労者として全国二百三十三個人・団体うち道内は十五個人・団体を大臣表彰する。道内の表彰式は十七日、小樽など六カ所で開かれる。道内で表彰されるのは次の通り。(敬称略)

▽海軍関係事業 出川

恵庭・丸浦さん8年かけ調査

故事来歴 ぎっしり

神社の境内で目を光らせている狛犬が、北海道には九百対以上あることが、恵庭市の木彫作家丸浦正弘さん(六八)の調査で分かった。丸浦さんは八年前かけて二千三百力所の神社を訪問し由来を探った。北前船で出雲から運ばれたものや、道都・札幌の建設期に奉納された札幌軟石の「地元産」など、調査結果から開拓史の一端がのぞく。

実も分かった。北海道に狛犬がやってきたのは江戸末期。大阪、出雲などで制作されたものが北前船で運ばれ、函館から留萌管内天塩町までの日本海沿いの町にある神社に奉納された。

「道産」の狛犬は明治三十年代から。札幌を中心に、札幌軟石を使った独自の狛犬が置かれていった。札幌近辺では九割五分が札幌軟石という。

機関車ずらり

市内での運行を再開した蒸気機関車「アイアンホース号」の写真の乗車を市民が楽しんだ。

五・八秒の敷地内では、一八八四年(明治十七年)に米国から輸入した蒸気機関車「しづか号」など、旧交通記念館時代からある約五十両の機関車と鉄道車両を紹介している。

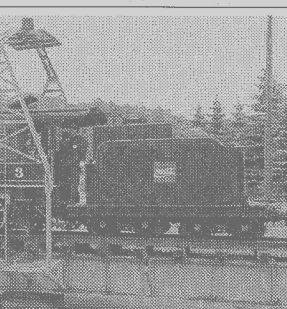
また記念の特別展では、昨年三月に同市銭函の海岸に漂着したトドの骨格標本(三・二メートル)を初公開する。

開館時間は午前九時半から午後五時まで。火曜日休館。入館料は大人四百円(冬期間は三百円)、高校生二百円(同百五十

に900対以上

前船とともに

「道産」の狛犬は明治三十年代から。札幌を中心に、札幌軟石を使った独自の狛犬が置かれていった。札幌近辺では九割五分が札幌軟石という。



二百円(同百五十